



# 給食だより

令和7年度 1月号

習志野市立第一中学校

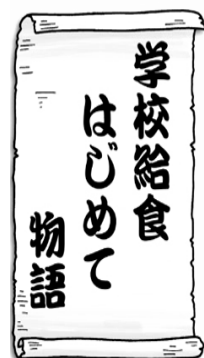
冬休みも明け、いよいよ1年間の総まとめの時期になりました。寒くて布団から出るのがつらい季節ですが、『早寝・早起き・朝ごはん』で生活リズムを整えましょう。今年も、安心・安全で栄養バランスの良い給食づくりに努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

1月24日～1月30日

学校給食の長い歴史を振り返り  
学校給食の意義や役割について  
理解と関心を深める1週間です。

全国学校給食  
週間

学校給食は、明治22年(1889年)に山形県鶴岡市の忠愛小学校で、昼食を持参できない子どもたちのために食事を提供したことが始まりです。その後、全国に広がりましたが、戦争による食料不足により中止され、多くの子どもたちが栄養失調になりました。戦後、救済物資により昭和21年12月24日に再開されたことで、この日が「給食記念日」となりました。現在は12月24日が冬休み中のため、1か月後の1月24日からの1週間を「全国学校給食週間」と定められています。



明治22年



貧しい家庭の子どもたちは、学校に行けなかったり、弁当を持参できなかったりしました。

雨の日も風の日も



佐藤霊山というお坊さんが中心となって、托鉢で寄付を募り、給食費にあてました。

学校給食の始まり



忠愛小学校で給食が提供されるようになり、貧しい家庭の子どもたちも学校で学べるようになりました。

以降、日本の各地で給食が提供されるようになりました。



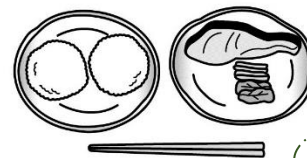
学校給食の歴史を振り返ってみましょう!



明治22年(1889年)

給食のはじまり

米飯と、野菜や魚のおかずが中心でした。



【おにぎり、焼き魚、漬物】

1月26日の献立  
【給食が開始した頃の給食】

大正12年(1923年)



【五色ごはん、栄養みそ汁】

9月1日に関東大震災が発生。義援金により給食が実施され、学校給食の価値が広く認められるようになりました。

昭和17年(1942年)

給食が一時中断



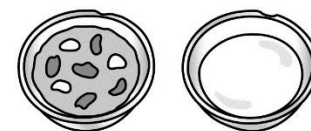
【すいとんのみそ汁】

1月27日の献立

昭和16年に太平洋戦争が始まると、食料が不足し、全国的に給食が中止され始めました。昭和19年には6大都市の小学生に特別配給物資(米、みそ等)による学校給食が実施されました。

昭和22年(1947年)

全国で給食再開



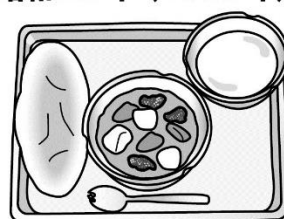
【ミルク(脱脂粉乳)、トマトシチュー】

昭和20年に戦争が終わり、子どもたちの栄養状態を改善するため、支援物資による学校給食が全国で開始されました。

1月28日の献立

昭和25年(1950年)

「パン・ミルク・おかず」の完全給食実施

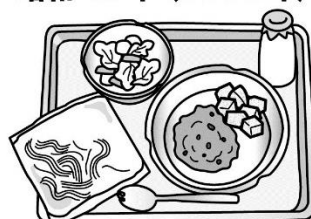


【コッペパン、ミルク(脱脂粉乳)、カレーシチュー】

アメリカから小麦粉が寄贈され、給食用のパンが作られるようになりました。

昭和40年(1965年)

「ソフトめん」登場  
脱脂粉乳から牛乳へ

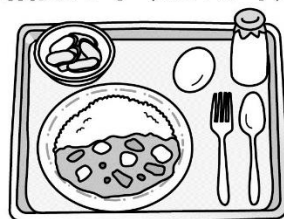


【ソフトめんミートソース、牛乳、フレンチサラダ】

昭和39年の東京オリンピックを堺にミルクが牛乳に変わっていきました。

昭和51年(1976年)

米飯(ごはん)の導入



【カレーライス、牛乳、塩もみ、ゆで卵】

食生活の洋風化が進み、国内では作った米が余り始めました。消費拡大のため米飯給食が開始しました。

1月30日の献立

そして、現在は…

「子どもたちの食習慣の乱れ」「生活習慣病の増加」等が心配されることから、学校給食は、食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身につけるために、さまざまなことを学ぶ「生きた教材」としての役割を担っています。また、栄養面に限らず、和食など食文化の伝承の役割も期待されています。

＊給食室より＊

今月は学校給食の歴史を紹介しました。時代とともに給食の意義や役割は、おなかを満たすことから、「食育」の生きた教材へと変化しています。24日から30日の1週間は給食の歴史を振り返る献立が登場します。食べ物が豊富な今だからこそ、給食を通して食に関する正しい理解と判断力を身につけてほしいと思います。